

# 秋まき小麦のは種について

今月は秋まき小麦の「は種作業」時期となります。計画的な作業で適期は種に努めましょう。

## 1. は種時期とは種量の目安（きたほなみ）

- ・は種量の目安は、は種適期で 7 ～ 8 kg/10aです。

は種時期	9月16～19日	9月20～24日 〔は種適期〕	9月25～29日
は種量	5.5～7kg/10a	7～8 kg /10a	8～9 kg /10a
粒数換算/m <sup>2</sup>	140粒～175粒	175粒～200粒	200粒～225粒

※は種量は、種子の千粒重を40gとして計算しています。は種適期は、5葉確保可能な日を中心とした前後5日間程度としました。

- ・生産性の高い穂（図1）を揃えるためには、頑健茎（越冬前に2葉以上を有する茎）をしっかりと確保することが重要です。
- ・冬損も考慮すると葉数は5～6枚確保、越冬前茎数900本/m<sup>2</sup>以下が理想です。
- ・多量のは種は、有効茎数割合が低下し、必ずしも多収には結びつかず、倒伏や千粒重の低下を招くおそれがあります。
- ・早期は種は、縞萎縮病の感染期間が長くなるため、発病リスクが高まります。過度の早まきは控えましょう。
- ・は種遅れは越冬のための生育量が不足し、凍上害や雪腐病の被害を受けやすくなります。遅くとも9月中に、は種を終えるようにしてください。



図1 左：頑健茎由来の穂  
右：針茎由来の穂  
(網走農業改良普及センター)

## 2. は種量設定時の注意点

- ・種子の千粒重を確認し、は種時期に合わせたは種量の設定を行って下さい。

## 3. 適正な土壌pH

- ・小麦は酸性に弱く、土壌pHが低いと根張りが悪く生育に大きく影響します。
- ・pHが低い場合は、炭カルなどで酸度矯正しましょう（最低でもpH5.5以上を確保）。

## 4. 適正なは種深度

- ・は種量が少なくなるほど、は種精度が大切です。機械の設定等、十分に注意してください。
- ・均一な出芽を図るために、適正なは種深度(2.0～3.0cm)となるよう機械の調整をしましょう。深まきは二段根発生の原因になり、出芽の遅れ、不揃いや分げつ抑制を引き起こします。

## 5. 除草剤散布について

- ・秋まき小麦の雑草対策は秋の除草剤散布が基本です。特に、イネ科雑草への対応は秋処理が主体です。
- ・出芽後の散布では効果が劣る場合がありますので、は種後出芽前の土壌処理を実施するよう心掛けましょう。
- ・耕起前に多年生雑草の多い場合は、グリホサート系の除草剤による耕起前処理を検討して下さい。